

2013年 鳥インフルエンザA（H7N9）発生での エマージェンシーコール®活用事例 Ver.1

2013年4月25日 インフォコム株式会社
サービスビジネス営業部

目次

1. 新型インフルエンザとは
2. 鳥インフルエンザと新型インフルエンザの関係
3. 鳥インフルエンザの状況（4/25現在）
4. 特措法について・その他 2013年4月10日～24日
5. BCPにおける地震災害と新型インフルエンザの相違
6. エマージェンシーコールでの活用例
7. 各フェーズに応じたエマージェンシーコールの活用例
8. エマージェンシーコールでの連絡例
9. 質問付き通報の実施方法
10. Sample 1：症状確認の緊急実施
11. Sample 2：感染者の出勤に関する注意
12. 質問サンプル1～9
13. 2009年の鳥インフルエンザの通報実施事例 その1
14. 2009年の鳥インフルエンザの通報実施事例 その2
15. 2009年の鳥インフルエンザの通報実施事例 その3
16. エマージェンシーコール®の最大の活用
17. ご質問、ご連絡

新型インフルエンザとは？

◆鳥インフルエンザとは・・・

鳥にかかるインフルエンザであり、水鳥が感染しているインフルエンザウイルスが、野鳥を経由して、家禽（飼育目的で飼われているトリ）に感染します。

このうちウイルスの感染を受けた鳥類が死亡し、全身症状などの特に強い病原性を示すものを「高病原性鳥インフルエンザ」と呼びます。

現在、中国を中心に広がっている インフルエンザウイルスA（H7N9）は、ヒトへの感染は確認されていません。

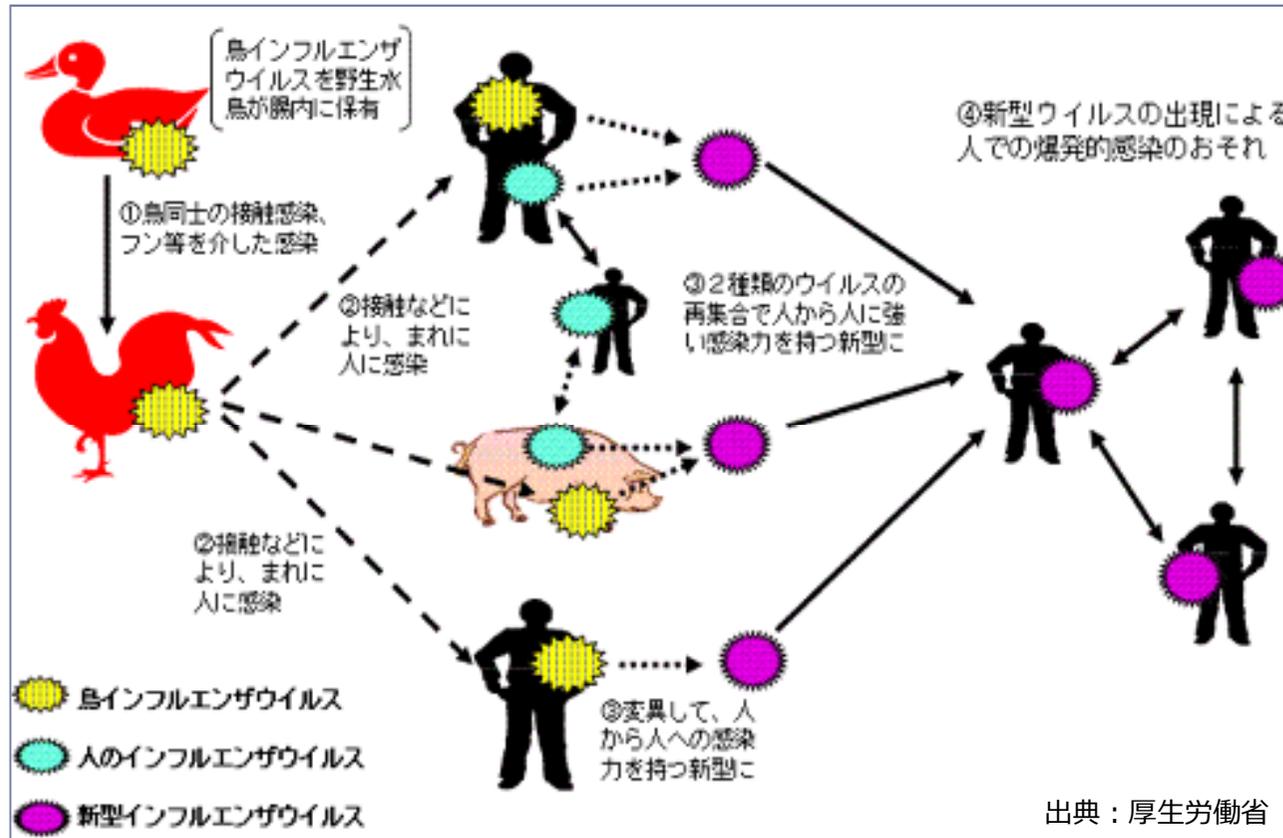
◆新型インフルエンザとは・・・

動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染し、人の体内で増えることができるように変化し、ヒトからヒトへと効率よく感染できるようになったもので、このウイルスが感染して起こる疾患が新型インフルエンザです。

よって、現在のH7N9は、新型インフルエンザウイルスとはいいません。現在のところ、新型インフルエンザはこの世にはまだ存在していません。

現在のH7N9のように、鳥からヒトへの感染を繰り返すうちに、ヒトからヒトへと感染する能力を獲得することが心配されています。

鳥インフルエンザと新型インフルエンザの関係



新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。人間界にとっては未知のウイルスでほとんどの人は免疫を持っていませんので、これは容易に人から人へ感染して広がり、短期間に世界的大流行（パンデミック）を起こす危険性があります。

鳥インフルエンザ A (H7N9) の状況 (2013/4/25 現在)

- ▶ 世界の状況
- ▶ WHO フェーズ 3 (旧)

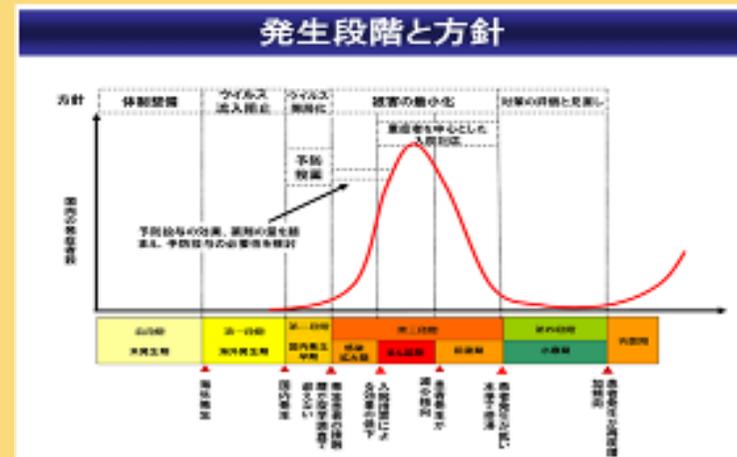
WHO フェーズは現在見直し中
 中国で感染者が増えている鳥インフルエンザ (H7N9 型) の警戒水準 (フェーズ) について、「あえて言えば『警戒態勢』の段階」

パンデミック間期	ヒト感染のリスクは低い	1
動物間に新しい亜型ウイルスが存在するがヒト感染はない	ヒト感染のリスクはより高い	2
パンデミックアラート期	ヒト-ヒト感染は無いが、または極めて限定されている	3
新しい亜型ウイルスによるヒト感染発生	ヒト-ヒト感染が増加していることの証拠がある	4
	かなりの数のヒト-ヒト感染があることの証拠がある	5
パンデミック期	効率よく持続したヒト-ヒト感染が確立	6

WHO ホームページより
http://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/phase/en/index.html

- ▶ 日本の状況
- ▶ 第一段階 (国内発生なし)

厚生労働省では、これまでのところ、ヒトからヒトへの感染は確認されておりません。
 現在、国立感染症研究所においては、中国 CDC (疾病予防管理センター) から入手したウイルス株を用いたワクチン株の製造準備を行うなど、鳥インフルエンザ A (H7N9) の対策を進めています。



厚生労働省ホームページより http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/images/phase_jp.gif

特措法について・その他 2013年4月10日～24日

政府は10日、中国で鳥インフルエンザウイルス（H7N9型）の感染が拡大していることを踏まえ、強毒性の新型インフルエンザに対する危機管理の取り組みを定めた「新型インフルエンザ対策特別措置法」の施行令を12日に閣議決定し、13日から施行することを決めた。4月下旬の施行を予定していたが、感染の広がりを受け前倒しした。

菅義偉官房長官は10日の記者会見で「鳥インフルエンザは現段階で人から人へ持続的に感染することは確認されていないが、万が一に備える」と説明。対策の詳細を定める新しい行動計画を16日に有識者会議へ提示し、早期に決定する方針も示した。

特措法は平成24年4月に成立。国内で新型インフルなどが急速に広まる恐れがある場合に緊急事態宣言が出され、外出の自粛要請、希望する住民に公費で予防接種などを行う。

厚生労働省は4月15日に全国の地方衛生研究所と主要な検疫所90か所に、H7N9型ウイルスの感染を診断する検査試薬の配布を始めた。

中国で感染が拡大している鳥インフルエンザ（H7N9型）について、厚生労働省は24日、感染症法に基づく「指定感染症」にすることを決めた。同日開かれた厚生科学審議会感染症部会で了承された。政府は近く政令を閣議決定し、来月上旬の施行を目指す。指定感染症になると、拡大防止策として、患者に対して最長2年間、強制的な入院措置や就業制限などが可能になる。指定は、2006年のH5N1型鳥インフルエンザ以来3例目。

BCPにおける地震災害と新型インフルエンザの相違

項目	地震被害	新型インフルエンザ
事業継続方針 (考え方)	出来る限りの事業の継続・早期復旧を図る	感染リスク、社会的責任、経営面を勘案し、事業継続のレベルを決める
被害の対象	主として、施設・設備等、社会インフラへの被害が大きい	主として人に対する被害が大きい
地理的な影響範囲	限定的（地域的、局所的） 代替施設での操業や取引が可能、他からの支援が可能	国内全域、全世界的 代替施設での操業や、取引事業者間補完が困難
発生時期	兆候がなく、突発的に発生	海外発生の場合には、国内発生までの準備が可能
被害の期間	最初の地震が最大被害、余震の期間が一定期間 (過去事例から影響想定が可能)	第一波の期間が約8週間、その後の第二波も考えられ、長期化する可能性 (不確実性が高く、予想が困難)

人的被害のシナリオ

発症率	2.5%
致死率	0.5~2.0%
従業員の欠勤率	20~40%
欠勤期間	10日間程度

欠勤者が増えた場合に備え、代替要員を確保する



- ・複数班による交代勤務制（スプリットチーム制）
- ・経営トップの交代勤務制
- ・家族の状況による欠勤の可能性増大の検討

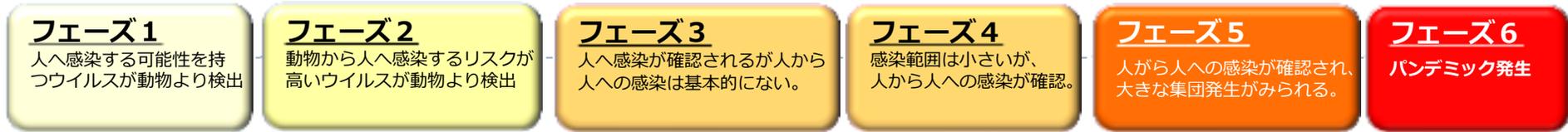
エマージェンシーコールでの 活用例

エマージェンシーコールでは、質問付き通報機能を利用することで、「症状確認の緊急実施」と「感染者の出勤に関する注意」等を行うことができます。

今回ご紹介する例は、あくまで当社のサンプルですので、ご利用になる場合は、その点を充分ご考慮のうえ、ご利用ください。

各フェーズに応じたエマージェンシーコールの活用例

フェーズはWHO見直しの為、旧のものを使っています。



発生前の準備

- 危機管理体制の確認 (対策本部設置、連絡体制構築)
- 情報収集及び、周知方法の確立
- 業務運営体制の検討 (旅行期間、欠勤者を想定)
- 感染予防の事前処置 (感染予防知識の啓発強化)
- 物品の備蓄 (マスク、手袋、石鹸・消毒用アルコールなど備蓄)
- 重要事業の事業継続の検討 (運営体制の検討)

発生直後の対応

- 情報収集及び周知
- 感染拡大予防の措置 (会議・会合、研修等の中止/延期、ビデオ会議)
- 海外勤務、海外出張する従業員への感染予防措置 (感染国の従業員及び、家族の退避、海外出張の是非)
- 予防的措置の啓発 (「咳エチケット」、健康状態の自己把握)

感染拡大時の対応

- 情報収集及び周知
- 業務運営体制の検討 (必要に応じた業務の縮小、従業員の自宅待機)
- 感染予防体制の措置
- 予防的措置の啓発の強化
- 重要事業の事業継続のための体制

-必要情報の共有- 掲示板機能

◇ インフルエンザ予防の徹底 NEW!	本文	現在インフルエンザが流行しております。各位感染予防を心掛けて下さい。 <インフルエンザ予防対策として> 1、手洗い 2、うがい 3、マスクの着用 4、出来る限り人混みを避ける 5、十分な栄養と休養を取る
◇ 新型インフルエンザ流行に伴う決定事項 NEW!	本文	WHOおよび厚生労働省より、日本国内での感染情報がございました。 対策本部の決定事項を記載致します。各位、決定事項を順守下さい。 1、海外及び、国内出張を中止 2、既存顧客以外の営業活動中止 3、インフルエンザ症状がある者の入社禁止 4、……

連絡機能と組み合わせる事と効果アップ!

- ◆ 感染予防知識の啓蒙強化
- ◆ 危険レベル、感染エリア情報
- ◆ 対策方針の通知

-健康状態の自己把握確認- 質問付連絡機能

- タイトル
健康状態調査にご協力願います
- メッセージ
WHO及び、厚生労働省より本日東南アジアにて新型インフルエンザ発生情報がございました。健康状態の調査を実施致しますので、各位回答願います。

※検索集計機能により、瞬時に対象者を抽出!

二次通報機能

- ◆ 予防対策未実施者へのフォロー
- ◆ 感染可能性がある者へフォロー

-感染可否を確認- 質問付連絡機能

- タイトル
【インフルエンザ】症状確認の緊急実施
- メッセージ
WHOおよび厚生労働省より、国内にて新型インフルエンザ発生情報の発表がありました。よって、インフルエンザに関する緊急確認を行います。各自、症状チェック項目にお答え願います。

※検索集計機能により、瞬時に対象者を抽出

二次通報機能

- ◆ 主幹事業への人員応援要請
- ◆ 流行地域での勤務・在住者への注意喚起
- ◆ 感染者の当社に関する注意

エマージェンシーコール®の活用ポイント

- ✦ 鳥インフルエンザ発症、流行に関する情報は患者が昼間に受診するケースが多いことから、夜間にWHOから発表されるケースが多い。その為、朝に通報を出す必要性がある。
- ✦ 患者の状況は時間と共に変わっていくので、状態は繰り返し上書き出来る事が必要。
- ✦ 夜間、休日だと社内メールなどの連絡では十分に連絡が取れないので、音声による自宅固定電話への連絡が必要となる。
- ✦ エマージェンシーコール®は、即座に個々の社員へ連絡が出来ることから新型インフルエンザ対策として多くのお客様に活用準備がされている。これは地震対策として導入したものを連絡内容を変えるだけで、新型インフルエンザ対策としても応用出来るからである。
- ✦ 救急対応マニュアルなどを掲示板として添付ファイルを置いておける。
- ✦ 現地状況として伝染病指定病院などをあらかじめ掲載しておくことが出来る。（次ページ参照）

Emergency Call

緊急連絡/安否確認システム エマージェンシーコール®

[ヘルプ](#) | [ログアウト](#)

ログインユーザ「高橋 克彦」

[ユーザメニュー](#)

● ユーザメニュー

メニュー	
ユーザ情報	ユーザ情報(連絡の通知先、パスワードなど)を変更できます。
連絡確認	自分宛に届いた緊急連絡を確認できます。また、質問の回答もここでを行います。
安否回答	自分の安否状況を回答できます。
伝言サービス	伝言ログインIDをご家族などで共有し、伝言のやり取りが出来ます。
現地状況	現地状況写真などを参照できます。

● 掲示板 [閲覧専用]

1/1 ページ

◇ 原宿本社救急対応マニュアル 添付ファイルあり	
日時	2013/02/15 10:25
記載者	インフォコムグループ GRM事務局
本文	原宿本社救急対応マニュアル
◇ 原宿本社用大規模地震初動対応マニュアル 添付ファイルあり	
日時	2013/02/15 10:20
記載者	インフォコムグループ GRM事務局
本文	原宿本社用大規模地震初動対応マニュアル
◇ 全社用大規模地震対応マニュアル 添付ファイルあり	
日時	2013/02/15 10:17
記載者	インフォコムグループ GRM事務局
本文	インフォコムグループ会社含めた全社用大規模地震対応マニュアル

● 現地状況

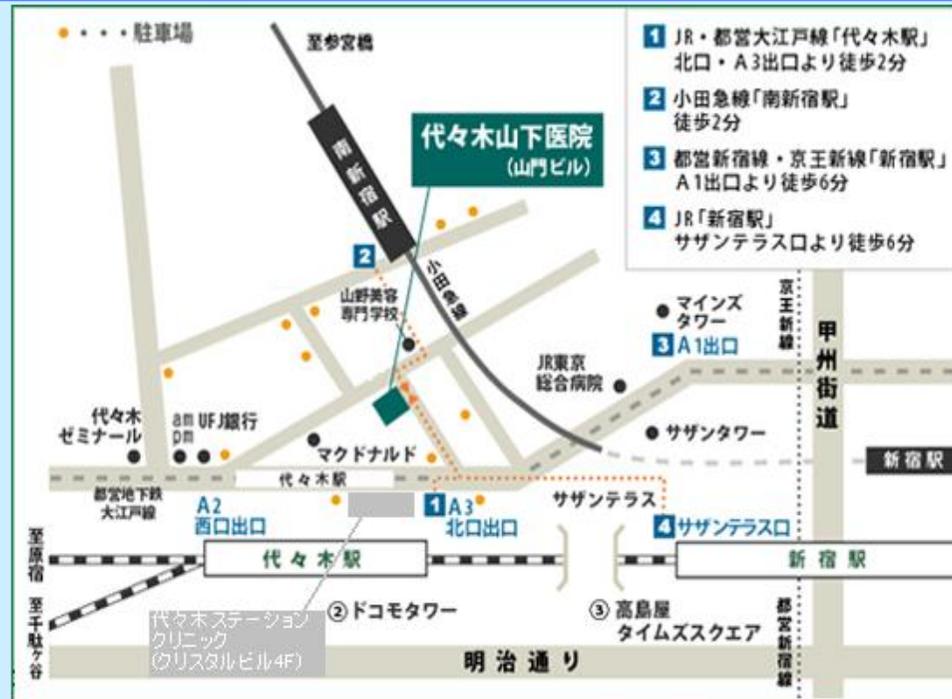
現地状況写真などを参照できます。

◇ 現地状況一覧(6件)

1/1ページ

代々木山下病院 人工透析あり

2012/11/15 16:43



代々木病院 人工透析あり

2012/11/15 16:35

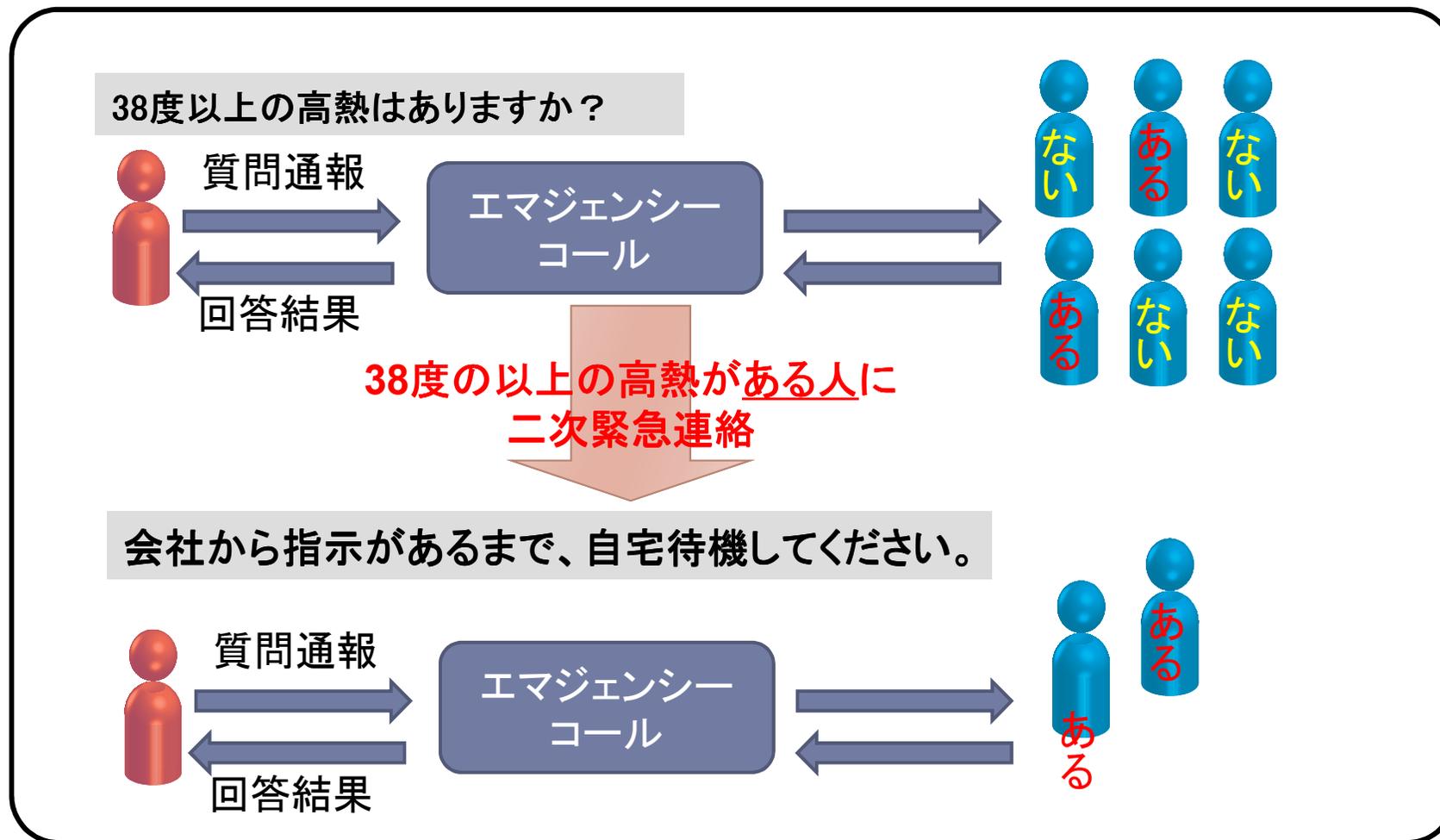


エマージェンシーコールでの連絡例

ご自宅に連絡をして、ご家族に対策を連絡する必要がある場合もあります。

⇒メールだけでは連絡出来ません。電話連絡機能が必要となります。

緊急連絡を行ったユーザの中から、ある条件で絞り込んだユーザに対して、別の内容の緊急連絡を行うことができます。（二次緊急連絡）



Sample 1 : 症状確認の緊急実施

タイトル	【新型インフルエンザ】 症状確認の緊急実施
メッセージ	○△□株式会社、人事総務部より連絡します。 WHOおよび厚生労働省より、中国上海にて 新型インフルエンザ発生情報の発表がありましたので 症状の緊急確認を行います。 各自、症状チェック項目にお答えください。
質問項目※1	1.現在滞在中の地域 (記入例：東京都 渋谷区 神宮前)
	2.滞在中の地域内での新型インフルエンザの流行状況
	3.新型インフルエンザ発生地域への渡航 (2週間以内)
	4.38度以上の高熱発生 (2週間以内)
	5.筋肉痛／関節痛
	6.倦怠感／疲労感
	7.現在の体温(数字入力)
	8.質問がある場合は、ご記入ください

Sample 2 : 感染者の出社に関する注意

タイトル	【新型インフルエンザ】感染者の出社に関する注意
メッセージ	○△□株式会社、人事総務部より、新型インフルエンザに感染した社員の皆様に連絡します。 新型インフルエンザが完治しましたら、発症した日の翌日から7日を経過するまで、外出を自粛してください。医療機関の「治癒証明書」は不要です。※1
質問項目	1.連絡のご理解が出来たかどうか YES or NO



POINT!

※1 新型インフルエンザ (A/H1N1) でも、通常のインフルエンザと同様、発熱等の症状がなくなっても感染力が続くと考えられています。

基本的に、**熱などの症状がなくなってから2日目までが外出自粛の目安**です。しかし、完全に感染力がなくなる時期は明確でないことから、業務上可能であれば**発症した日の翌日から7日を経過するまで**、外出を自粛することが望ましいと考えます。

なお、労働者に対し治癒証明書や陰性証明書の提出を求めることについては、新型インフルエンザの陰性を証明することは一般に困難であることや、患者の治療にあたる医療機関に過剰な負担をかける結果になることから、望ましくありません。

ご質問、ご連絡

- ▶ エマージェンシーコールの詳細な情報、2例以外の連絡サンプル等ご希望でしたら、ご説明させていただきますので、下記にお問い合わせ下さい

インフォコム株式会社
サービスビジネス営業部

Tel:03-6866-3450 Fax:03-6866-3940

Mail:emc-info@infocom.co.jp

ホームページ：

<http://www.infocom-sb.jp/>